

おんたけさま Q&A No.1

押山周辺における大正～昭和の御嶽信仰（登拝）について

1) はじめに

Q：この写真はなに？



A：大正末～昭和初期（昭和8年以前）の御嶽山登拝（とはい）の写真です。写っている人については、当時の“名倉のおんたけさま”である金田茂三郎氏や押山の人（昭和8年没）名倉の人（昭和8年没）が判明しています。全員、履物は草鞋（わらじ）で金剛杖（こんごうづえ）を手にしています。それ以外の服装はまちまちですが、女性の服装とヘアスタイルにはびっくりです。また荷物らしきものが見あたらないことも気になります。他にも写真はあり、下の左は上の写真の人たちが三の池に移動したところです。右は別のお宅にあったもので撮影場所は剣ヶ峰頂上です。



これらの写真を出発点に、**当地域の大正末～戦前**の御嶽信仰について現在の“名倉のおんたけさま”の金田博久氏や当地の年配者からの聞き取りをおこないました。

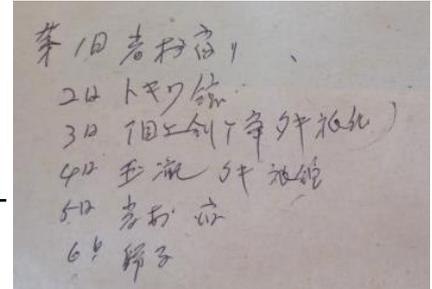
以下、当時の**御嶽山登拝**と**日常生活のなかの御嶽信仰**のようすについて記します。

1) 御嶽山登拝について

Q：誰が中心になって企画・実施していた？

A：“名倉のおんたけさま”と呼ばれた金田茂三郎さん（明治14年～昭和44年）が中心でした。

現在もその教会は引き継がれています。



Q：どんな行程で行った？

A：記録は残っていませんが、昭和13年の名倉発のメモが見つかり参考になりました。整理・補足すると以下ようになります。押山の人も便乗していたと思われます。

1日目 名倉－（徒歩）→岩村（泊）

上松かも

常盤橋付近

2日目 岩村－（電車？）→恵那－（汽車）→木曾福島－（徒歩）→木曾町の旅館（泊）

3日目 旅館－（徒歩）→王滝登山口－（登山）→剣ヶ峰頂上の山小屋（泊）

4日目 山小屋－（尾根を縦走）－（下山）→山麓の旅館（泊）

5日目 旅館－（徒歩）→木曾福島－（汽車）→恵那－（電車？）→岩村（泊）

6日目 岩村－（徒歩）→名倉（5泊6日）

（参考）中央線は明治44年開通、岩村～恵那は明治39年路面電車開通）

Q：どんなグループで行った？

A：足助・名倉では教会単位でした。名倉教会管内の参加者は口コミによって自然に集まったようで、特に勧誘はしなかったそうです。

参加者の居住地区はバラバラで、名倉地区・稲武地区・岐阜県上矢作地区などの人たちが一緒に行ったとのこと。人数は30～50人程度が多かったそうです。

集落単位で行きそうな気がするのですが、そうではありませんでした。

Q：出発時期はどう決めた？

A：8月と決まっており、日には“名倉のおんたけさま”が決めました。現在と違って養蚕が忙しい時期でしたが、当時は大家族だったのでなんとかなったのでしょう。

なお、御嶽山は開山日（7月）と閉山日（9月）が決まっており、これ以外の期間は山頂の社務所や山小屋が閉鎖してしまうため、登拝はしませんでした。

Q：当時の山小屋の食事・環境は？

A：気圧が低いためご飯がうまく炊けず、芯があるのが普通だったそうです。また、山小屋への物資運搬が困難だったのでおかずはほとんど無し。

満員のときは押し入れから土間まで使って雑魚寝。予約の通信手段など無かったので、とにかく来る人はみんな小屋に入れてしまったそうです。



Q：天気判断はどうしたか？ 遭難したことはないか？

A：天気については事前に託宣を受けて（＝神様に聞いて）晴れる日に行ったそうです（！！）

山で遭難した例は無いとのこと。確かにこの辺でも聞いたことがありません。ベテランの先達（せんだつ）と小先達（こせんだつ）が統制していたそうです。

ちなみに、ラジオ放送が始まったのが大正14年で、普及が進みだしたのは昭和6年ころからです。当然、お天気情報など利用できませんでしたから、先達の経験と五感だけが頼りだったと言えます。

先達と呼ばれる人たちは、雲の形や色・空気の湿り具合や臭い・風の向きや強さなど色々な要素を瞬時に感じとって天気を判断したり、山中でのさまざまな危険を回避したりするための優れたセンサーの持ち主だったと思われます。



Q：そうは言っても雨具は持って行ったのでは？

A：山中で雨に会うことはめったになかったようですが、油紙（和紙に油を浸したものを）を持参したとのことでした（金田氏）

また、大正時代あたりは、菅笠（すげがさ）とゴザを持参することも多かったようです。左は金田氏所蔵の当地域の人々の写真、右は御嶽神社関係の資料から拝借した画像です。失礼ながらどう見てもホームレスにしか見えませんが……。



Q：大正～昭和初期の人たちはあの服装で山に登れた？！

A：ちゃんと写真が残っている以上あの格好で登れたのでしょう。ただし、今日のように7合目まで車で行ける時代ではなく、ふもとから登ったので大変だったと思います。ただ、現在のような登山ファッションが普及する前は、仕事着の延長のような恰好で登ることが普通だったらしく、時代は下がりますが以下のような写真が参考になります。左は戦時中のもので国民服、右は昭和20年代でモンペ姿の女性などが見えます。どちらも今日的な登山スタイルではありません。



これらの写真の時代もまだ山のふもとから登る時代であり、山中で一泊していました。だから、着なれた服で登ったものと考えられます。

だとすると、冒頭の大正末～昭和初期の写真の人女性たちの着物姿も、あれが一番着なれた服装だったのかもしれない。

余談になりますが、山に入るときは、身軽にするため着替えなどの荷物はほとんど持たなかったそうです。

なお、7合目＝田の原まで車道が開通するのは昭和42年です。